

## 古代アメリカ学会第5回東日本部会研究懇談会のお知らせ

第5回東日本部会研究懇談会を以下の要領で開催します。ふるってご参加下さい。また非会員の方も参加できますので、関心をお持ちの方にはぜひお声をおかけ下さい。参加の事前登録は必要ありません。

### 【研究懇談会概要】

「考古学における祭祀・儀礼研究の現在」と題した今回の研究懇談会では、二つの論考が発表されます。一つはマヤ地域のエル・パルマール遺跡、もう一つは中央アンデス地域のワンカ・ハサ遺跡の事例に基づいた研究です。コメンテーターを迎え、このテーマについての議論を広げたいと思います。是非この機会にふるってご参加ください。

### 発表1 「広場の政治性：古代マヤ都市エル・パルマールを事例として」

【発表者】 塚本憲一郎（日本学術振興会特別研究員 SPD/青山学院大学）

【コメンテーター】 関雄二（国立民族学博物館教授）

### 【概要】

古代マヤ都市の考古学調査では従来、王権を象徴する神殿ピラミッドや宮殿などの建造物に関心が集中する一方、広場はその重要性が一部の研究者によって指摘されていたにも関わらず、あまり着目されてこなかった。しかしマヤ都市群において、中心部のみならず周縁部にもつねに複数の広場が確認されている。中心部には、都市の総人口を一度に収容できる大広場があり、歴代の王が大観衆を前に劇場型の儀礼を行っていたことがわかっている。よって古代マヤ文明において広場は普遍的な建築要素であり、社会の形成過程を解明する上で重要な研究課題である。本発表は、2007年から14年にかけて実施した、メキシコ合衆国カンペチェ州南東部に位置するエル・パルマール遺跡の調査成果をもとに、前150年頃から後900年頃までのマヤ文明における広場の政治性について論じる。特に、これまで王権の支配的イデオロギーを表象していると考えられてきた、都市の北周縁部にある広場を政治舞台ととらえ、異なった成員による権力とイデオロギーのせめぎあいについて考察する。

### 発表2 「祭祀建築の儀礼的放棄:ペルー中央高地南部ワンカ・ハサ遺跡の事例」

【発表者】 土井正樹（日本学術振興会特別研究員 PD/山形大学人文学部客員研究員）

【コメンテーター】 松本剛（南イリノイ大学考古学調査センター・ポスドク研究員）、若林大我（法政大学他 非常勤講師）

### 【概要】

アンデス文明史上初の広域国家であるワリ国家は、ペルー中央高地南部のアヤクーチョ谷で7世紀から11世紀にかけて繁栄したと考えられている。しかし、その形成過程に関してはほとんど明らかになっていない。ワンカ・ハサ遺跡は、アヤクーチョ谷に位置し、ワリ国家の形成期と重なる6-7世紀頃に利用されていたと考えられる。ワリ国家の形成、

繁栄、衰退について、「行政センター」に代表されるような大遺跡ではなく、小規模な集落遺跡の視点からとらえることを目的とし、2002年にワンカ・ハサ遺跡の発掘調査を実施した。この調査の過程で、新たな建物を建てるために古い建物が儀礼的に放棄されたことを示す状況が明らかとなった。本発表では、この調査の背景、調査内容、そして調査後の土器の分析から判明したことについて報告する。

**【日時】** 2015年6月13日（土）

- ・開会あいさつ 13:25
- ・発表1 13:30～14:30
- ・コメントおよび質疑応答 30分
- ・小休憩（15分）
- ・発表2 15:15～16:15
- ・コメントおよび質疑応答 30分（16:45終了予定）

**【会場】**：東京大学本郷キャンパス総合研究博物館7階ミュージズホール

<http://www.um.u-tokyo.ac.jp/information/map.html>

・休館中につき博物館の正面玄関は閉まっておりますので、建物南東側の通用口にお越し下さい。開始時間を過ぎてからのご到着の場合、通用口に掲示した指示に従って入館してください。

・通用口から入ったのち、階段の左側のエレベーターで7階にお越し下さい。階段の右側のエレベーターは6階までしか上がりません。

**【主催】**：古代アメリカ学会

**【連絡先】**：

- ・東日本部会幹事・福原弘識（非常勤講師）[hironorifukuhara@gmail.com](mailto:hironorifukuhara@gmail.com)
- ・古代アメリカ学会事務局 [jssaa\\*sa.rwx.jp](mailto:jssaa*sa.rwx.jp)

（上記アドレスの\*を@に換えて下さい）